

全軟連

—ZENNANREN—

NEWS

2025
winter

Vol.6



野球を通じて、 人生で何を得るのか

スペシャルインタビュー 大野豊さん



公益財団法人
全日本軟式野球連盟



野球を通じて、
人生で何を
得るのか

野球解説者・評論家

大野 豊

現役時代は沢村栄治賞を受賞し、
引退後には野球殿堂入りも果たした元広島東洋カープ投手の大野豊氏。
実は、大野氏は社会人の軟式野球チームからプロ入りした異色の経歴の持ち主だ。
プロ野球界において誰よりも軟式野球の魅力や可能性を知っている人物と言っても過言ではない。
今回はそんな大野氏が、軟式野球に励んだ頃の思い出を振り返りつつ、
今まさに軟式野球に取り組む選手たちにエールを送る。

軟式野球の奥深さ、 レベルの高さと皆さんの仕事と 野球にかける思いを 世間にもっと知ってほしい。

「勝つ喜び」を知るまでの長い道のり

——大野さんが野球を始めた時のことを聞かせてください。

大野 我々が子どもの頃は、今のよう
に全国に少年野球チームがあるような
時代ではありませんでしたから、明確
に何歳から始めたかは覚えていないで
すね。当時、野球というスポーツは多
くの小学生にとって身近な存在で、物
心ついた頃には近所のお兄ちゃんたち
から「空き地に集合！」と声が掛かっ
て、みんなで遊んだ記憶があります。
使っていたボールも軟式のテニスボー
ルだったかな。遊びの一環だったので、
今の子どもたちのように「将来プロ野
球選手になる」なんて思うこともな
かったですね。

——本格的に野球をやることになった
のは、中学の部活動からですか。

大野 そうですね。ただ、私は走るの
が好きだったので、最初は陸上部に入
部したんです。でも新人の大会でいい
結果が出せなくて。同じグラウンドを
使っていた野球部の練習が楽しそうに
見えたこともあり、一年の二期期に野
球部に転部しました。昭和の時代の野
球部でしたから、練習はそれなりに厳
しかったです。強いチームではなかつ
たので勝つ喜びを味わえる機会はな
かったですが、初めて「チームで戦っ
た」という経験をして、思いやり、助け合
い、励まし合いの精神など、チームワ
ークの基本と言われるものを学ばせても
りました。

——その後、出雲商業高校に進学し、
硬式野球部に入部。野球を続けたい思
いがあったんですね。

大野 ありましたね。ただ、母子家
庭だったので早く自立したい気持ち
もあって。就職しやすい商業高校を
選んだのもそういう理由でした。新
しい用具を気軽に買ってもらえるよ
うな家庭環境ではなかったんですが、
小学生の頃だったか、ある朝目を覚
ますと黒いグローブが枕元に置いて
あったんです。母親は前のめりで応
援することはなかったものの、やり
たいことをやり続ける私を陰ながら
見守ってくれていました。家計に負
担をかけていることは重々承知して
いましたけど、そんな母の思いを知っ
て野球だけはなんとかやり通そう
と。三年の夏は一回戦負けであっけ
なく終わりましたが、三年間で練習
や上下関係の厳しさを学んで成長で
きましたし、「これからも野球を続け
ていきたい」という気持ちは高校を
卒業する時も変わりませんでした。

——高校卒業後は出雲市信用組合に就
職し、軟式野球部に所属されました。

大野 島根には硬式野球部のある企業
がなかったため、軟式野球部のある会
社を探していたところ、信用組合さん
に声を掛けていただきました。人との
コミュニケーションにあまり自信がな
かったので業種的には少々迷いました
が、野球に力を入れている会社で、母
親のことも楽にできて好きな野球もで
きるということで、思い切って挑戦し

てみよう、と。入社後は渉外を担当し
ましたが、じっと座ってお客さんを待
つのではなく自ら動く仕事だったので、
思いのほか楽しかったですね。もちろ
ん慣れるまでは時間がかかりました
が、お客さんから名前を呼んでいただ
けらようになってからは自信がついて
さらに仕事が楽しくなりました。競技
のほうは、硬式から軟式に移行するの
に少し苦労はしました。最初はまとも
に投げられなかったですね。でもチ
ームが強かったのでやりがいはいまし
たよ。この時、初めて野球で「勝つ喜び」
というものを味わうことになったんで
す。これはやはり格別でした。

**アマチュア時代——子どものころは「野
球の楽しさ」、中学では「チームワーク」、
高校では「練習や上下関係の厳しさ」、
そして社会人では「勝つ喜び」を学んだ。**

運命的な出会いに導かれたプロ生活

——社会人の軟式チームで充実した競
技生活を送られていましたが、そこか
らプロに行った経緯は。

大野 社会人三年目に融資や不動産の
担当になったんですが、仕事が複雑で
壁にぶち当たることが増え、先輩に相
談する日々を送っていました。そんな
時、一学年下の後輩がテストでプロに
受かって。時期を同じくしてカープの
コーチが野球教室で出雲に来て、うち
のチームが手伝いをするようになった
んです。プロを身近に感じる機会が立



て続けにあつて、かなり刺激を受けました。さらに、高校との練習試合で久しぶりに硬式球を投げてみたら、5回投げて13三振も獲れたんです。その程度でその気になるなんてと思われるかもしれませんが、そんな出来事が重なって急にプロに挑戦してみたいという気持ちが湧いてきた。なんとか伝手をたどって、カープの入団テストを受けさせていだいたんです。野球というスポーツが自分の人生を変えてくれた瞬間でした。

——憧れのプロにテストで入団。その後、どんな日々を過ごされましたか。

大野 2月にテストを受けて、3月にチームに合流しました。5月から二軍で投げて三勝して、一軍に呼ばれたのが8月4日。あつという間ですよ。プロ初登板は一か月後の9月4日。広島市民球場、タイガース戦の敗戦処理

でした。島根から来た後援会が大きな横断幕を広げて応援してくれたのですが、ヒット、ヒット、タイムリー、満塁ホームラン、フォアボール……結局3分の1回で5失点。防御率は135.00。もちろん即二軍落ちですよ。もう一軍で投げることはないだろうと、市民球場から寮まで泣きながら一人で歩いて帰りました。でも母親から「一度の失敗で諦めるのはダメだ」と叱られて。よくよく考えたら社会人で三年間も軟式をやっていたわけだし、3月の合流だったからキャンプでの調整もできていなかった。新人なのだから、実力、技術、体力の無さだって当然ある。そんな中で一軍を経験できたわけだから、もう一度しっかりやればチャンスはあるはずだと奮起したんです。

——大野さんにとって、翌シーズンに出会った江夏豊さんの存在は大きかったですか。

大野 強かったジャイアンツ相手に真つ向勝負する江夏さんは、憧れの存在でした。その方がまさかカープに来るなんて、もう運命ですよ。左投手で同じ名前の若手がいると当時の古葉（竹識）監督が江夏さんに伝えてくださった。春のキャンプからずっとつきつきりで見てもらいました。江夏さんが近くにいると報道陣がたくさん来ますから、自分も見られているような気になる。プロの仕事は人に見られている中でいかに力を出せるかですね。だから江夏さんと一緒にいて注目されることに慣れたのは大きかったです。

もちろん投球フォームなど技術的なこともたくさんアドバイスをいただいた。徐々に結果を残せるようになりました。それがプロ二年目のことです。こつして振り返ると、本当に素晴らしい出会いに導かれた野球人生だったと思います。

——結果的には43歳まで現役を続けられました。当時はここまで長くプレーできる選手は少なかったと思います。が、長くできた秘訣は。

大野 大怪我がなかったことはやはり大きかったです。丈夫に産んでくれた親に感謝していますし、小さい頃に自然の中で動き回って足腰が鍛えられたこともよかったでしょうね。あとは、40歳を過ぎた頃から同世代の男性からの激励の手紙が増えたこと。彼らのためにも頑張ろうという気持ちが原動力になり、若い選手に負けるもんかという気持ちを最後まで持ち続けることが



できました。41歳の時、血行障害で手術をして、再発を繰り返す中で迎えた98年8月4日、東京ドームの巨人戦。リリーフ登板で高橋由伸との初対戦。二球目をガツンとバックスクリーンに逆転スリーランを打たれました。ずつと負けん気でマウンドに立っていた自分、その時は「ああ、これで辞められる」と思った。辞めるために何か大きな出来事が欲しかったんです。これはもう辞める時だと、すっきりした気分になりました。「我が選んだ道に悔いはなし」と言える野球人生でよかったなと改めて思います。

**「我が選んだ道に悔いはなし」
すべての選択と出会いに恵まれた
野球人生だった。」**

野球をやったよかったと思える人生を

——引退後、すぐに指導者を経験されました。どんな思いで指導にあたりましたか。

大野 現役を辞めてすぐカープのコーチに就任しましたが、現役のほうがいいと楽だと思いましたが（笑）。指導者になった一年目には大きな反省もありました。いいところを見てあげればよかったのに、できないところ、弱いところばかりに目が行って、それを改善しようとしてしまった。もちろん絶対に直すべきことは伝えますが、悪い部分はかり指摘してはいけません。プロの選手はい

いものがあるからこそプロに入ったわけ、まずはそれを認めてあげないといけない。また、プロでも若い選手はまだ世間を知らないの、技術指導だけではなく教育も必要です。その点では、私の場合は社会人時代に人に頭を下げる仕事をして、「プロで成功してもその時の気持ちは忘れないようにしよう」と心がけてきたので、その経験が活かされたかな、と。プロ野球は力の世界ですが、結局は人と人との触れ合い。特に挨拶は簡単なことだけれども大事で、私自身、挨拶できない人間は信用できないと思っていて、いなので、特に挨拶に関しては厳しく言っていました。

——ユニフォームを脱いでからは学童世代の現場を目にすることも増えたとお聞きしました。現場を見てどんな感想をお持ちでしょうか。

大野 今の子どもたちは言われたことはきちんとやるし、しっかりした子が多い。素晴らしいことだと思う一方、自分で考える、工夫する能力にはちょっとだけ物足りなさを感じることがあります。みんなで一緒にやることはできるのですが、個人的に自分のよさを伸ばしたり、苦手を克服したりするスキルがもう少しあるといい。特に投手は一人で工夫できることがたくさんありますからね。さらに欲を言えば、一つのことをとことんやり通す力。例えば「ここに投げる」という一つの課題を追求し続ける力です。結果を早く求めすぎるのか、うまく行かないとす

ぐにやり方を変えてしまったり、大事な基本や土台を忘れていきなり大谷選手の真似をしたりするので、もう少し辛抱強く練習するのいいと思いますね。指導者のほうも、粘り強く待つこと、そして基本・土台の大切さを伝えることが大事。また、「わかった？」と子どもに聞いて「はい」と言われても安易に信用しないことです。何がわかったのか、しっかり本人に口に出して言ってもらってください。言葉にすることで、子ども自身にも責任を持たせることができる。すると子どものほうも、だんだん主体的に物事を捉えるようになっていくと思います。

——引退後、アマチュア野球界をまた目にするようになって、改めてどんな思いを抱いていらっしゃいますか。

大野 自分がプロにいた頃は「ほっとした」とはありましたが、「楽しかった」という感覚は一度もありませんでした。仕事ですから当然です。ただアマチュアはまず「楽しむ」ことが第一。チームとしては勝ちたい、指導者もチームを勝たせたい。でも長い野球人生を考えた時、皆さんは何のために野球をやっているのでしょうか。そのゴールは必ずしも勝つことだけではありませんよね。野球を通じて何を学び、何を残せたか。子どもたちには「野球をやったよかった」「あのチームで頑張ったから今の自分がある」と思える未来があつてほしい。彼らが社会に出た時、野球をやっていたことが人生に活きていると感じてほしい。それこそが野球

をやる価値だと思うし、その中にこそ「楽しい」がきつとある。そうなるように導く役割を担っているのが指導者の皆さんです。私も野球教室などで子どもと接する時は、勝敗や技術のことよりもそちらを重視しています。「スポーツには相手がいる。負けたくないよね。勝つために上手になりたいよね。でも、それ以前にもっと大事なことがあるよね」と。自分自身の気持ちをどうコントロールするのか。どんなふう

にチームメイトを思いやり、相手チームに敬意を表すのか。次に向けていかに自分を見つめ直し、どう取り組んでいくのか。子どもたちにはそういうことを伝えていきたいですね。

——学童・少年世代以外にも、軟式野球をやっている方々がたくさんいらっしゃいます。

大野 70代、80代まで軟式野球を楽しんでいる方もいるそうですね。何歳になっても楽しめる競技だと思います。おそらく私たちには本能があるんですよ。たとえ年をとって体が動かなくなっても、バットを持てば打ちたい、打てば走りたい、ボールを持てば投げたいという本能を、体が忘れていないんです。それに、野球はまわりに人がいるからこそできるスポーツ。続けていけば、おのずと人生が豊かになるものです。個人的な意見ですが、軟式野球は硬式以上に奥深い。全力プレーができなくなったとしても、その奥深さはずっと追及していったほうがいいと思います。また、かつての私と同じよう

に社会人で仕事をしながら軟式野球に励み、天皇賜杯や国入スポで日本一を目指している方々。全国大会のステージに上がるとすごいチームや選手との出会いがあったりして、軟式野球の奥深さをさらに感じるものですよ。仕事の目標も大事にしながら、同じ熱量で野球の目標も追いかける。そんな皆さんの美しい姿を、世間の皆さんにもっと観ていただきたい。社会人はどうしても硬式が話題になりがちですが、軟式のレベルの高さには注目すべきものがあります。軟式経験者である自分にできることがあれば、ぜひ協力させていたきたいと思っています。

■ 大野豊(おおの・ゆたか)

1955年生まれ、島根県出雲市出身。島根県立出雲商業高等学校を経て出雲市信用組合に就職し、軟式野球部に所属。ドラフト外で広島東洋カープに入団し、1977年から中継ぎ・先発・抑え投手として活躍。最優秀防御率や最優秀救援投手などのタイトルを獲得。1988年には沢村栄治賞を受賞。1998年に現役を引退し、一軍投手コーチに就任。2013年に野球殿堂入り。現在は野球解説者・評論家として活躍中。



春の軟式交流試合 in 甲子園

軟式野球が甲子園に？軟式野球という魅力を全国に一。



2025年5月に「春の軟式交流試合 in 甲子園」が開催されました。軟式野球の魅力を発信し、さらなる普及と振興を目的として、全国から軟式部員を選抜して東西チームを組み、阪神甲子園球場で開催する初めての試み。当連盟も微力ながら協力いたしました。試合自体は西日本選抜が3-0で勝利しましたが、甲子園でプレーをする選手たちの顔は満足感に溢れているように見えました。そんな中でも注目のがスタンドの応援。

スタンドにはチーム関係者を含む多くの方が集まり、関西3府県から集まった吹奏楽部の演奏に合わせて自然と両チームに大きな声援をおくっていました。関係者の方曰く「軟式高校野球の魅力の一つは応援」とスタンドとグラウンドが一つになっているのが印象的でした。

全日本軟式野球連盟としては野球・軟式野球振興目的で後援の立場で協力させて頂きました。主に近畿ブロック内の支部登録の学童、少年（小中学生）チームの選手、関係者と大学軟式、準硬式野球連盟の登録チームの選手、関係者約550名が来場し会場を盛り上げてくれました。

交流試合後に各メディアで参加選手が取り上げられる機会も多く、2026年も「春の軟式交流試合」開催予定となっています。軟式野球の魅力をより一層伝えていき、「軟式野球を知ってもらえる」機会に当連盟としても貢献していきたいです。

實会長 コメント

軟式野球は日本独特の野球として、我が国の野球を支え、その発展に大きく寄与してきました。この交流試合で、軟式野球でも甲子園でプレーできるようになりました。この大会に参加する諸君は、他校の選手とともに素晴らしい思い出にしてください。全国の軟式野球部員の皆さんもこれを目標、励みとして日々の野球を楽しんで下さい。



—— 第70回全国高等学校軟式野球選手権大会 ——

第70回大会の記念として各日の第1試合開始前に当連盟の所属選手が始球式を務めました。開会式が行われた明石トーカ口球場では 浪速ナカマーズの勝木奏一朗さんが高校生も唸るボールを投げて会場を沸かせました。計7名の方に始球式にご協力いただきありがとうございました。

始球式選手

天橋ガールズ	磯本 瑠海さん	いそもと るい	6年生
向日ウイングス	岡 凌汰さん	おか りょうた	6年生
浪速ナカマーズ	勝木 奏一朗さん	かつき そういちろう	6年生
太子ジュニア	竹中 陽悠さん	たけなか ひゆう	5年生
佐用ワープジュニア	寺田 耀一さん	てらだ よういち	6年生
鳴尾東ビクターズ	西村 綺咲さん	にしむら きさき	6年生
伊保セブン JBC	平山 琉晟さん	ひらやま りゅうせい	6年生

始球式



チーム紹介 あなたのまちの ナイスチーム

Have a Nice Team!



50歳以上のチーム 紫式部楽園

紫式部楽園は創部4年ながら第8回全日本シニア軟式野球大会(ドウクラッセーナメント)で優勝し、全国制覇を果たしたチームです。「ALL紫式部」という4つのチームを総称した団体の一つ。ほかに、「紫式部」(一般クラブチーム)、「紫式部侍」(40歳以上のアスリート魂を持つチーム)、「紫式部極」(40歳以上の純粋に野球を楽しむチーム)があり、総勢87名が在籍。様々な年代のメンバーが入り交じり、切磋琢磨し合っています。

今回ご紹介する紫式部楽園は「紫式部」と「紫式部侍」に所属していた50歳以上が中心のメンバーです。

年齢を感じさせない
高い向上心で全国制覇を達成

全国制覇を果たした裏には、年齢

に関係なく常に高い意識と向上心を持ち続けるという活動方針があります。チーム代表、北村誓二さんはチームの活動について、こう語ります。

「スローガンは『一生青春』。全国制覇後も『何歳になっても本気で泣ける野球を』の思いのもと、仲間とともに全国の頂点を目指し挑戦を続けています」

現在は、課題である体力の維持と技術の安定を図るため、特に基礎体力の維持・向上を重視。走力強化を中心とした週2回のハードトレーニング(自主トレ)をチーム内で徹底しています。毎週日曜日の全体練習ではどんなに厳しい練習でも声を出し合い、励まし合うのがチームのスタイル。仲間との信頼や明るいチームワークを育み、勝利だけでなく成長も楽しむチームです。また、競技練習に加えて、人とのつながりも大切にしています。

「ALL紫式部内でBBQやゴルフコンペ、親睦会などを定期的に実施し、仲間との信頼関係を深めています。年齢を重ねても互いに支え合い、笑顔の絶えない明るい雰囲気の中で活動が続けることが、チームの活力の源ですね。メンバーは深い友情や絆で結ばれた関係で、まさに『一生の仲間』です」

2連覇に向けて成長の日々
地域に元気を与える存在に

最後に、北村さんは今後の抱負に

ついて語ってくれました。

「目標は、来年の全日本シニア大会2連覇。そしてその先も、年齢にとらわれず技術と体力の向上を追い求め、常に成長し続けるチームでありたいですね。野球を通じて得られる喜びや仲間との時間を糧に、地域にも元気を与えられる存在を目指して参ります」

ALL紫式部はこれまで築いてきた実績と仲間との絆を大切にしながら、今後も挑戦を続けていきます。



チームの長所

50歳以上で構成されたガッツあふれるチーム。厳しい走り込み中心の練習も笑顔で乗り越え、活動を続けている。

主な活動場所

大阪府門真市

所属人数

31名





女子中学生チーム 香久山ビッグメイツ エンゼルス

奈良の中学生、唯一の
女子単独チーム

香久山ビッグメイツエンゼルスは、奈良県の中学生女子単独チームとして2018年4月に発足しました。今年4月には8期生を迎えます。奈良県立教育研究所グラウンドで毎週、土日祝日に活動しています。

発足のきっかけは、女子小学生の軟式野球全国大会「NPBガールズトーナメント」に出場していた奈良県の選抜チーム「オール奈良」の選手たちが中学生になった際に、所属できる奈良県の女子単独チームがなかったことです。

大会成績は「第7回全日本中学女子軟式野球大会」で全国第3位という好成績を残しています。

団結の力で優勝を目指す
能動的なプレーが成功の秘訣

合言葉は「POWER OF UNITY」心をつなぐ。込められているのは、チーム一丸となり、個々の実力以上の力を出すことで全国制覇できるチームになるという強い思いです。

この思いを胸に、香久山ビッグメイツエンゼルスは優勝を目指して、全員が全力でプレーをしています。

全国制覇を実現させたい。そのために心掛けていることを、事務局長の音無弘至さんから語っていただきました。

「指導面で大切にしていることは、前向きになる声掛けを心掛けること。他人から言われてではなく、自ら進んで行動を起こせる人間を育てることが野球のプレーにおける成功の秘訣ですね」

また、傾向として、女子中学生は野球の知識が少し乏しいこともあるので、基本やセオリーをかみ砕いて教えるようにしているそうです。加えて、実践を意識した練習をすることで、ゲーム中の緊迫した場面で焦って起こるミスやエラーの減少を目指しています。

基本やセオリーに基づいて、次に起こることを想定し、準備をすること（準備力）で、選手の実力が少しでも向上するように努めています。

生活面もしっかりと指導
人間力を鍛える

競技以外では、挨拶のできる思いやりのある人間になってほしい、困難から逃げることなく立ち向かってほしいという思いがあります。そのため生活面についても、厳しくしっかりと指導しています。

奈良の女子野球界を切り拓く
人材を誕生させる

最後に、音無さんから今後の意気込みを語っていただきました。

「奈良県の中学女子軟式野球のパイオニアとして、今後益々の発展が期待できる女子野球界に少しでも貢献できる人材を誕生させるべく、指導者一同頑張ります！ また、女子高校野球部の創部にも尽力していきます」

チーム名の通り、エンゼルのような笑顔でこれからの女子野球界を引っ張っていくであろう、頼もしいチームです。

チームの長所	主な活動場所
いつも明るく笑顔でプレー。良い結果が出れば全員で喜び、全員で乗り越えて次を目指す力を持っている。とにかく野球が大好きな女子たちの集まりです。	奈良県立 教育研究所グラウンド
	所属人数
	27名





学童チーム 京都スマイルガールズ

好成績連発の 女子小学生選抜チーム

京都スマイルガールズは、2013年に設立された京都府内から集まった女子学童（5・6年生）で構成された選抜チームです。普段は選手それぞれが所属している学童野球チームで活動していますが、毎年5月頃から10月頃までは毎週土曜日に宇治川公園グラウンドに集まり、練習に励んでいます。

ここ数年の戦績は「2021年NPBガールズトーナメント」準優勝、「2022年NPBガールズトーナメント」3位、「2024年NPBガールズトーナメント」準優勝と、安定した好成績を収めています。

コミュニケーション不足を 解消する雰囲気づくり

現在のチームの課題は、選抜チームであるが故の選手同士のコミュニケーション不足が見られることです。解決のため、グラウンド内では思ったことなるべく声に出し、選手同士で指摘し合える風通しの良い雰囲気づくりを大切にしています。そして一戦一

戦大切に試合をし、京都代表としての意識や礼儀を持つことをチームの伝統としています。

楽しむことが良いプレーに 野球ができる環境に感謝

スローガンは「当たり前」のことを馬鹿にしない!! いいプレーは全員で喜んでいこう!!」です。まずは、選手自身が野球を楽しみ、さらに野球への興味を深めることで、自分で考え行動する力を育むことを重要視しています。その成果もあり、「2021年NPBガールズトーナメント」ではタイプリーグでトリプルプレーを成功させました。

加えて、監督の山本通章さんは選手に「良いプレーをしたから楽しいのではなく、楽しいから良いプレーができる」と説いています。こうした教えから選手同士は「いいね!!」と声を掛け合い、モチベーションを高めながら、全力で野球を楽しもうとするチームのカラーが生まれています。

山本監督の指導は競技以外にもおよびます。

「野球ができていて環境を当たり前」に思わず、家族や監督、コーチの皆に感謝の気持ちを持つ。道具を大切にするようにと声をかけています」

選手たちは、その教えを実践し、使った後は必ず自分で手入れをして野球ができることへの感謝、道具への

感謝の気持ちを大きくしていきます。

次こそは念願の全国制覇 京都府に優勝旗を掲げたい

最後に、山本監督にチームの今後の目標について語っていただきました。

「京都スマイルガールズはNPBガールズトーナメントで準優勝を2回、3位を1回、経験しています。ですが、まだ優勝したことは一度もありません。先輩方が達成できなかった念願の『全国制覇』に向けて日々、練習し、必ず京都府に優勝旗を持って帰りたいと思います」

京都スマイルガールズ流の「楽しむ野球」で、選手たちに勝利の笑顔が咲くことでしょう。

チームの長所	主な活動場所
全員笑顔で仲良く楽しく、全力野球をする。 SMILE BASE BALLを常に意識し、 見ている人達から素晴らしいと思ってもらえる チーム。	宇治川公園 グラウンド
	所属人数
	19名



団体名 青森県軟式野球連盟

設立 1946(昭和21年)4月

所在地 青森県青森市自由ヶ丘1丁目12-5

連絡先 TEL:090-7320-8451

ホームページ <https://aomoripref-jsbb.jimdofree.com/>

SNS Facebook:<https://www.facebook.com/profile.php?id=61572282501111>
Instagram:https://www.instagram.com/aomoripref_jsbb/

野球のすそ野、ともに広げていこう!

こちら全軟連
青森県 軟式野球
連盟

全国47都道府県の各支部では、軟式野球を発展させるために様々な取り組みや活動を行っています。各支部で注力していることについて、支部の特色とともに紹介します。



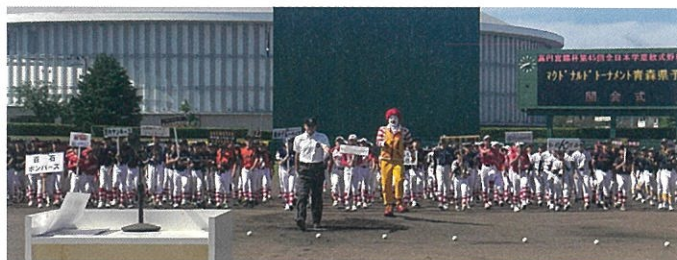
青森県軟式野球連盟会長
井戸端 隆雄

井戸端隆雄支部会長からのごあいさつ

青森県支部は青森、弘前、三八、十和田、三沢、むつ、南黒、西五、北郡の県内9支部で編成され、5月から10月にかけて大会を開催しております。活動理念は『「感謝」あくしゅ、あいさつ、ありがとう。日本スポーツ協会のフェアプレイに宣言したうえでスポーツ界に携われる環境に感謝。日々ルールを守り、審判や対戦相手を尊重し、ゲームができることへの感謝と互いの健闘を称え感謝の気持ちを伝える。』です。今後も近年の軟式野球を取り囲む環境の変化に対応し、各支部・チーム・会員が一丸となり、新たな意識改革、新たな取り組みに励む所存です。

主な主催大会(2025年度)

天皇賜杯全日本軟式野球大会ENEOSTーナメント
高松宮賜杯全日本軟式野球大会(1・2部)
国民スポーツ大会軟式野球競技県予選大会
日本スポーツマスターズ軟式野球競技
東日本軟式野球大会(1・2部)
高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント
青森県少年軟式野球大会(小学生の部・中学生の部)
東北学童軟式野球新人大会
全日本少年軟式野球大会ENEOSTーナメント
文部科学大臣杯全日本少年春季軟式野球大会ENEOSTーナメント兼東北少年軟式野球大会
中学校・少年クラブ軟式野球新人大会
全日本シニア軟式野球大会
青い森信用金庫理事長杯(小学生・中学生)キャッチボールクラシック大会



支部の課題解決と競技普及のために

若い審判員が育たず、審判員の高齢化が年々加速しています。周知のため、SNSや地元の広報誌を通して活動等を発信中です。さらに若い人達が審判員認定制度の資格を取得しやすくなるよう制度の再構築を図り、若い審判員の育成に努めています。加えて、競技普及のために以下の6つを実施しております。①各末端支部より肘・肩検診。②野球の基礎、(学童・少年)キャッチボール大会。③他団体への後援及び協力並びに連携。④審判員の派遣制度に加え、記録員・放送員の派遣制度も取り入れ、特に女性の活躍する場を提供。⑤SNSなどを活用して、県大会等を中心に活動情報を発信。⑥登録チームの記録員を対象とした記録講習会。



今後に向けての抱負

近年、軟式野球には大きな変化がありました。登録チームの減少、軟式野球ボールの生産量減少等。これをスポーツの低迷期と考えるか、スポーツ界の多種多様化傾向の中での回復傾向を安定期と考えるか。大切なことは将来益々予想される多種多様化傾向のスポーツ界再編成の時代において、軟式野球をどう発展させていくかです。現状の登録チームを維持していくには、組織や現場の指導者の意識の改革が必要です。それが軟式野球の将来を左右するでしょう。国民的スポーツに発展した軟式野球の本質を見失うことなく、問題解決をしていくことが更なる競技の発展に繋がります。

「野球って 楽しいよ!」

広がる野球の輪

こども野球継続支援事業の一環として

昨年から開始した子どもが野球とふれ合える体験イベント。コンセプトは変わらず偶然の出会いから野球って楽しい!と実感してもらうことを目的に、昨年より開催場所を拡大して実施しています。今年は初の試みで茨城県のAクラスチーム「常陽銀行野球部」の選手の皆さんに水戸市の野球体験イベント運営にご協力いただきました。今後も都道府県支部、チームの皆さんと連携しながら全国各地で体験イベントを拡大していきます。

新潟県

野球であそぼー! in NIIGATA



昨年に引き続き、全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメントの会期中に本イベントを実施。本年は新潟県に場所を移し、新潟市教育委員会を通じた学校配布チラシや新潟県内のマクドナルド全店舗でのポスター掲出等、事前告知に全面協力をいただいたお蔭で、750名もの親子連れが参加する大盛況な体験イベントとなり、野球初体験の子供たちから「またやりたい!」「今度は友達と来たい!」との多くの声が聞かれました。



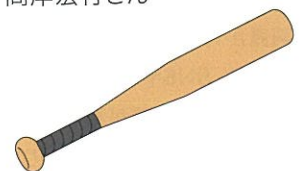
- 日時 : 2025年8月15日(日) 17:30~19:30
- 場所 : HARD OFF ECOスタジアム新潟
- 主催 : (公財)全日本軟式野球連盟、
一般社団法人新潟県野球連盟
- 特別協賛: 日本マクドナルド株式会社
- 後援 : 新潟市、新潟市教育委員会

- 協力 : 新潟医療福祉大学野球部、女子硬式野球部
- 対象 : 野球(スポーツ)未経験者から、
野球(スポーツ)に関心のあるすべての方
- ゲスト: ティモンディ 高岸宏行さん
- 体験者数: 750名



【実施内容】

- ① 投げる(キャッチボール/ストラックアウト)
- ② 打つ(ティーボール)
- ③ 走る(ベースランニング)
- ④ 楽しむ(ピッチャーマウンド体験 ※フォトスポット)



さいたまスーパーアリーナ内で様々な競技ブースが設置されている中で、「野球って楽しいよ!」の体験ブースを設置し、2日間で延べ979名が訪れました。参加者アンケートを実施したところ、「楽しかった」と回答した方が8割以上。「今までに野球をやったことが無いと回答した方」が71.4%、「今後やってみたいと思うか」の質問には54.6%が「やってみたい」と回答。「親子でキャッチボールができる貴重な機会」「野球に縁がなかったがすごく楽しめた」との意見も聞かれ、親子参加型のキャッチボールイベントへの手ごたえが感じられました。



- 日時: 2025年5月31日(土)～6月1日(日)
- 場所: さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ内
- 主催: (公財)全日本軟式野球連盟
- 協力: 日本大学準硬式野球部
- 対象: 未就学児～小学校中学年程度の野球未経験・初心者層とその保護者
- 体験者数: 979名(2日間合計)

【実施内容】

- ① 投げる(親子キャッチボール体験、段ボール的あて)
- ② 打つ(ティーバッティング体験)



イオンモールのイベントスペースにおいて実施した体験イベント。初めてバットを握るお子さんたちは日本大学準硬式野球部の皆さんから優しく指導を受けてティーバッティングに挑戦。バッティングのコツを掴んだお子さんたちは野球の楽しさを発見した様子でした。「親子でキャッチボール体験」コーナーでは「子供と初めてキャッチボールをした」「親子で楽しめて良い思い出になった」など保護者の方からの声が多く聞かれました。

- 日時: 2025年9月14日(日)～15日(月・祝)
- 場所: イオンモールむさし村山つむぐ広場
- 主催: 多摩アーバンテインメント実行委員会
- ブース運営: (公財)全日本軟式野球連盟、NICE BOX株式会社
- 協力: 日本大学準硬式野球部
- 対象: 未就学児～小学校中学年の野球未経験者・初心者およびその保護者
- 体験者数: 延べ455名



【実施内容】

- ① 投げる
(親子キャッチボール体験、段ボール的あて)
- ② 打つ(ティーバッティング体験)



今年初の試みで、全軟連登録チーム「常陽銀行野球部」の選手の皆さんに体験イベントへの運営協力を依頼し、選手の皆さんから保護者やお子さんたちへ積極的な声掛けを行っていただきました。野球未経験のお子さんや保護者からは「楽しかった」「また体験させたい」との多くの声が聞かれました。全軟連の社会人野球部が地域の野球普及活動に関与する新しいモデルとなりました。

- 日時: 2025年9月14日(日)
- 場所: ケーズデンキスタジアム水戸(みとオータムフェスティバル会場内)
- 主催: (公財)全日本軟式野球連盟、茨城県軟式野球連盟
- 協力: 常陽銀行野球部、NICE BOX株式会社
- 対象: 未就学児～小学校中学年の野球未経験者・初心者およびその保護者
- 体験者数: 147名

【実施内容】

- ① 投げる
(親子キャッチボール体験、段ボール的あて)
- ② 打つ(ティーバッティング体験)



【実施内容】

- ① 投げる(キャッチボール/ストラックアウト)
- ② 走る(ベースランニング)
- ③ 打つ(ティーバッティング)

江別市の社会人硬式野球クラブチームに運営協力いただき、大谷選手提供の「大谷グローブ」を用いたキャッチボールやストラックアウト、柔らかいボールを使用したティーバッティング等、野球初心者のお子さんでも楽しめるイベントを実施しました。

- 日時: 2025年9月21日(日) 10:00～12:00
- 場所: 江別市飛鳥山公園体育館(雨天のため)
- 主催・共催: 北海道軟式野球連盟石狩支部所属
江別野球連盟
江別市少年軟式野球連盟
- 協力: 江別ブルーインズ
- 対象: 少年団等には加入していない
未就学児～小学生低学年
- 体験者数: 80名

地元高校生のお兄さん、お姉さんと一緒に野球のプレーを一つ一つ楽しむイベント。イベント終了時に各チームの体験会情報を配布することで、野球に興味をもったお子さんとチームをつなぐ効果が期待できるイベントとして毎年実施しています。

- 日時: 2025年10月26日(日) 10:00～15:00
(2部制)
- 場所: 松江市営野球場
- 主催: 松江市軟式野球連盟
- 協力: 松江市教育委員会、松江市スポーツ少年団、
県内高等学校野球部
- 対象: 午前の部・未就学児
午後の部・小学生低学年
- 体験者数: 253名(午前102人・午後151人)



【実施内容】

- ① 投げる(キャッチボール/ストラックアウト/
スピードガンコンテスト)
- ② 打つ(ティーバッティング)



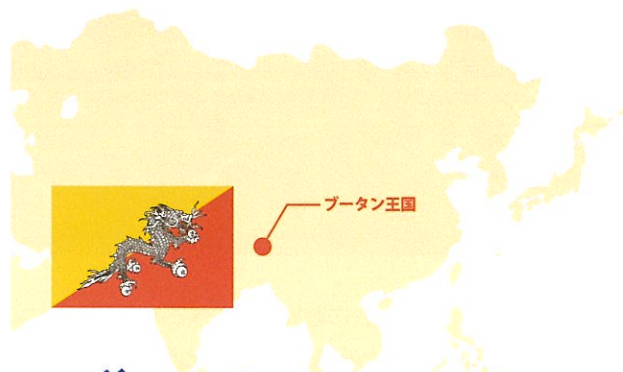
「中高生・スポーツ選手とスポーツで遊ぼう」をテーマに、福島ゆかりの選手や指導者等と交流し、遊びの中で体を動かすイベント。

- 日時: 2025年11月15日(土) 9:00～11:00
- 場所: 楽天イーグルスみちのく鹿島球場
- 主催: ふくしまスポーツ未来プロジェクト in 相双実行委員会
- 協力: 相双地区中体連軟式野球専門部、福島ベースボールプロジェクト他
- 対象: 5歳～12歳

【実施内容】

- ① 投げる(キャッチボール/ストラックアウト/トランポリンキャッチ)
- ② 打つ(エアヒットマシン/ティーボールゲーム)





ブータンへの 野球用具の寄贈

ブータン王国の野球振興を目的に
野球用具を寄贈しました。



ブータンは2021年7月にWBSC（世界野球ソフトボール連盟）に加盟し、青少年の健全育成に野球が重要な役割を果たすとの方向性により野球やソフトボールが新たなスポーツとして楽しまれています。本年2月にブータン野球・ソフトボール連盟の関係者が来日し、情報交換を行いました。寄贈の決め手となったのは、現状の普及振興段階では、安全で耐久性もある軟式野球用具が有効という点で本連盟として、またアジアの仲間として、ブータンへの用具寄贈を決定しました。今回は、外務省のスポーツ外交推進事業（器材供与）に採択されたことを受け、全国の皆様からお預かりした軟式野球用具をお届けさせていただきました。現地では、10月18日（土）に大使館主催（協力：ブータンオリンピック委員会、JICAブータン事務所）により引き渡し式が行われブータンの子ども達に手渡されました。今後のブータンでの野球振興を期待しています。



寄贈用具

- ボール 2,400 球
- バット 30 本
- グラブ 20 個





グッドスマナーアワード選考基準(学生・少年)

応募者:

記入日:	月	日	チーム名:						
項目	点数	1	2	3	4	5	点数	評価者名	
1 グランドアワード委員の承認可否								①指導教員 ②事務部長 ③事務部長補佐	
2 経済的・組織的健全性								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
3 学校決定委員会関係の改善								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
4 学校交代(スピーチアクト)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
5 学校改革								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
6 学校チームチームの取り組み								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
7 大人数への関与								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
8 関係へのコミットメント								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
9 経済的リスク								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
10 経済的リスク								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
11 大人数への関与(小委員会)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
12 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
13 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
14 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
15 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
16 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
17 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
18 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
19 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
20 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
21 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
22 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
23 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
24 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
25 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
26 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
27 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
28 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
29 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
30 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
31 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
32 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
33 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
34 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
35 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
36 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
37 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
38 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
39 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
40 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
41 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
42 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
43 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
44 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
45 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
46 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
47 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
48 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
49 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
50 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
51 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
52 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
53 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
54 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
55 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
56 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
57 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
58 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
59 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
60 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
61 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
62 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
63 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
64 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
65 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
66 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
67 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
68 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
69 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
70 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
71 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
72 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
73 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
74 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
75 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
76 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
77 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
78 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
79 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
80 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
81 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
82 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
83 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
84 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
85 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
86 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
87 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
88 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
89 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
90 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
91 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
92 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
93 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
94 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
95 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
96 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
97 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
98 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
99 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	
100 学校改革の推進状況(学校)								①事務部長 ②事務部長補佐 ③会計部長	

※ 評価項目で、評価担当者で評価してください。

※ 評価項目については、各項目の点数の合計が50点に達しない場合は減点と見なされ、評価を受けてください。

※ 評価項目のうち、①～⑩は必須項目と見なされ、⑪～⑤⑥の項目は評価しなくてもよい。

※ 評価項目は、各校が各自で決定してください。

※ 各校が評価を希望する項目については、各校での評価の仕様の異なる評価項目で構成した評価シートを提出してください。

A group of baseball players in white uniforms with dark pinstripes are running on a dirt field. The players are wearing caps and have their numbers visible on their backs. They are in various stages of a sprint, with some players' arms pumping and legs in mid-stride. The background is a blurred view of the field and possibly spectators, suggesting a live game in progress.

JSBBだより

PLAY

研修・セミナー・講習会を開催しました！



2025年度競技者対象コンプライアンス研修会



本連盟登録の一般部 A クラスのチームを対象にコンプライアンス研修会を初めて開催しました。コンプライアンス教育は、スポーツ界に限らず最重要テーマの一つ。本連盟では 2024 年に役職員、審判員向けの研修会を開催し、2025 年は競技者スポーツ界の一員として、また野球・軟式野球の競技環境改善のため、基礎知識、現状と課題、スポーツマンシップ、野次撲滅、アンチ・ドーピングについて学びを深めることができました。今回は一般部チームを対象としましたが、今後も少年・学童・女子など各カテゴリーでの展開を企画していきます。より良い野球環境の構築のために組織全体でコンプライアンスの意識を高めて参ります。



- 日 時： 2025 年 1 月 31 日 13:00～17:20
- 会 場： JSPO 会議室
- 参加人数： 95 人



女性審判員情報

本連盟では、女性のスポーツ振興を目的に女子種別全国大会（全日本女子中学軟式野球大会、NPB ガールズトーナメント）に対し、支部の女性審判員の方を派遣しています。近年、多様性や包摂性（ダイバーシティ）がスポーツ界でも重要視され偏見や差別をなくしていく社会づくりが進められています。



本連盟としても多様性を重視し本年は初めて「女性審判員講習会」を開催し、今後も女性審判員の普及・活躍の場を広めていきます。



女性審判員講習会

- 日 時： 2025 年 4 月 26 日（土）～ 27 日（日）
26 日： 14 時～18 時
27 日： 8 時 30 分～12 時 30 分
- 会 場： 志太スタジアム（ホテルワイナリーヒル）
〒410-2501 静岡県伊豆市下白岩 1434
- 参加人数： 27 名（全国 13 支部）
- 講 師： 女性審判員 3 名（岩男氏、秋元氏、竹内氏）
本連盟審判技術委員会 5 名（元木氏、佐々木氏、近藤氏、塚田氏、吉野氏）



中学女子大会時の岩男審判員



中学女子大会時の野村審判員



女性審判講習会の様子

TOPICS

Baseball5 ワールドカップ大会結果報告



世界野球ソフトボール連盟 (WBSC) が第2回となるユースBaseball5ワールドカップを開催し、全日本野球協会 (BFJ) が日本代表チームを初めて派遣しました。3月開催のアジアカップで見事優勝し、アジアチャンピオンとして初出場、初優勝を目指した日本代表でしたが、結果は7位という結果に終わりました。ユース大会は中学2年生から高校3年生までの世代の大会になり、軟式野球界からは、2名の女子軟式野球選手が日本代表として参加しました。Baseball5の国際大会は、ユースの他、オープン（一般）のワールドカップが2年に一度、それぞれ開催されています。今大会の経験を次世代のチームに受け継ぎ、国際大会での活躍を目指していきます。また、2026年10月（予定）には、「ダカール2026夏季ユースオリンピック」が開催予定となっており、日本は出場権を得ています。本連盟登録の少年部（中学生）の選手にも日本代表として参加のチャンスがあります。Baseball5にもチャレンジしてみたいでしょうか！？

【大会名】WBSC第2回ユース Baseball5ワールドカップ

【会期】2025年9月24日（水）～27日（土）

【開催地】メキシコ・ナヤリット州テピク

Baseball5の詳細については
こちらから確認下さい。

<https://www.baseball5.jp/>

TOPICS

ワールドマスターズゲームズ2025（台湾）視察報告



ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催に伴い、前回大会にあたる台湾台北市・新北市の実施状況の視察を行いました。当初は2021年に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本大会の目的である文化交流などのアクティビティの実施が困難なことから2027年に延期されました。日本開催の成功に向けて、台湾野球協会とも親睦を深めました。台湾関係者からのアドバイスとして「大会期間の長期

【日程】2025年5月24日（土）～27日（火）

【出張先】ワールドマスターズゲームズ2025
台北市・新北市

【場所】台湾 台北市・新北市

【視察内容】使用球場、競技日程・競技方法、
大会運営（全般）救護体制、審判員および運営スタッフ
大会ルール（特別規則等）、式典関係（表彰式など）

化は海外からの参加者だけでなく、自国の参加者も参加しにくくなる傾向がある。大会期間を短くする一方で、体力的にハードにならない競技日程の検討が必要。また台湾大会では、出場チームに通訳者などがいないため、海外の参加チームと大会本部とのコミュニケーション不足も課題に。日本開催では、大会期間の調整と各会場に通訳者を配置することを念頭に大会開催に向けて準備していきます。

NEWS

令和7年度成長期のスポーツ障害予防・指導者講習会
（スポーツ振興くじ助成事業）開催のお知らせ

スポーツ振興くじの助成を受けて、学童部および少年部の指導者および選手保護者を対象とした「成長期のスポーツ障害予防・指導者講習会」を2025年10月26日（日）から全国10会場で開催しております。本講習会は、スポーツ整形外科専門医による成長期の子どもたちに発症しやすいヒジや肩の障害に関する基礎的知識についての講義と、理学療法士による障害

【後援】公益財団運動器の健康・日本協会

【開催地・開催日時】

ブロック	開催地	開催日	開催時間（予定）	会場
関 東	東京都渋谷区	2026年1月17日（土）	13時～17時	東京体育館第1会議室
北信越	石川県金沢市	2026年1月18日（日）	13時～17時	いしかわ総合スポーツセンター
近 畿	滋賀県大津市	2026年1月31日（土）	13時～17時	大津市皇子山総合運動公園野球場
四 国	徳島県徳島市	2026年1月24日（土）	13時～17時	むつみスイミング会議室

予防のためのウォーミングアップ・クールダウンの方法に関する講義・ストレッチ等実技指導を主な内容としています。

※本講習会はJSPO公認スポーツ指導者（公認コーチ1・コーチ3）の資格更新のための研修会となっております。

NEWS

2025年度委員会活動報告

本年度も各種委員会が活発に行われました。委員会活動の一部をご報告します。

● 競技運営委員会

2026年度よりB・C級大会は9回終了後10回からタイブレーク方式により勝敗を決することとします。

【背景・理由】

国際的な試合時間短縮の流れや、選手の疲労軽減、次試合チームの選手、応援団、大会関係者が試合開始時間や終了時間をある程度予測できるようにするため。

● 医科学委員会

2026年度より学童部(女子共)の1週間の投球数制限を実施します。

【導入内容について】

1週間の投球数は210球以内とする。(4年生以下180球以内とする。)

【背景・理由】

長期間による連戦は、全国大会に限られるが、1週間の投球数制限を設けることで、一人の投手への負担を軽減し、今以上に複数投手の育成を行うチームが増えると同時に、肘肩障害の発生率が抑えられることを期待している。

● 規程財務委員会

少年部、学童部の監督、コーチの年齢を20歳以上から18歳以上に連盟規程細則を変更しました。

【(チーム編成等)第3条】

現行	改訂案
3 少年チーム(少年部・学童部)は、監督1名、コーチ2名以内、選手10名以上25名以内で編成しなければならない。 ただし、監督、コーチは20歳以上でなければならない。	3 少年チーム(少年部・学童部)は、監督1名、コーチ2名以内、選手10名以上25名以内で編成しなければならない。 ただし、監督、コーチは18歳以上でなければならない。

● 倫理コンプライアンス委員会

公認学童コーチオンデマンド講習受講において替え玉受講による資格不正取得事案が発生しました。本事案は懲罰規程第3条【違反行為】(5)法令、本連盟の規程等に違反する行為に該当するとして、理事会において指導者5名に対し次の処分を行いました。

対象者	処分内容	期間
指導者A (指導者4名の代理受講)	競技者処分基準第4条【処分の種類及び内容】(4)競技者としての軟式野球活動の一定期間停止 ※既に学童コーチ資格を返上しているため、資格はく奪処分はなし。	24か月
指導者BCDE	競技者処分基準第4条【処分の種類及び内容】(4)競技者としての軟式野球活動の一定期間停止	6か月
	競技者処分基準第4条【処分の種類及び内容】(5)本連盟が認定した資格のはく奪	24か月

連盟Instagram・Facebook・Xを
フォローしてください！

全日本軟式野球連盟公式Instagram・Facebook・Xを開通しています。大会結果等の最新情報を随時掲載していますので、是非フォローして最新情報をチェックしてください。



@JSBB_NANSHIKI99_OFFICIAL



読者アンケートにご協力ください

このたびは、本連盟広報誌をご覧いただきありがとうございました。次回広報誌作成に向けて、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。また、掲載してほしい内容、ユニークなチームや注目選手・名物監督・名物審判など、広報誌が充実するような有益な情報がありましたらお知らせください。なお、アンケートにご入力頂いた個人情報は、連盟から取材依頼のご連絡をする等広報誌制作の目的以外では使用いたしません。

※WEBアンケートになります。

QRコード読み取り・または下記URLにアクセスしてください。

<https://forms.gle/ZrnQzPDjvE9ra3Vr9>





公益財団法人
全日本軟式野球連盟